

わになるミッション！砂場づくり「おれたちが作ったんやで！」

— 小1・2生活科 授業実践 —

大阪精神医療センター分教室

1 はじめに

本分教室では、例年他学年に比べて1、2年生の在籍人数が少ないことが多く、児童の在籍状況や児童の実態に応じて、1、2年合同で授業を行うこともある。生活科の授業は、1、2年合同で行うことが多い。本稿では、1、2年合同で行った生活科における授業実践「わになるミッション！砂場づくり」を紹介する。

本単元では、砂や水等の感覚を楽しみながら行う体験的活動を通して、思考錯誤をしたり、教員の促しを受けながら友達と一緒に活動したりする力を養うことを目標とした。また、砂遊びの発展とした砂場作りを通して、役割意識が養われることをねらいとした。児童に砂場作りのミッションを行った。授業ごとに児童たちには「ミッション」として伝え、授業担当者とは別の教員が直接伝えたり、事前に撮影をした動画を使ったりして楽しめるように工夫した。また、大切な仕事を任されたと思ってもらえるように意識させた。

2 児童の実態

対象児童は1年生男子1名、2年生男子1名の児童2名。どちらの児童も、大阪精神医療センターに措置入院し、本分教室に通っている。自分の思い通りにならないことに対して不穏になったり、物や人に対して暴力が出てしまったりする様子が見られた。また、自発性に乏しく、慣れ親しんだ教員の手助けが必要であり、自発的な発言はあまり見られなかった。そして、活動を行う際には、自分本位な行動が多く見られた。

3 わになるミッション「砂場づくり」

単元の指導計画（全12時間）は次の表の通りである。

9/29 (木)	(1)砂遊び	どろんこあそび・泥だんご作り
10/ 5 (水)		どろんこあそび・山作り
10/12 (水)		どろんこあそび・池作り
10/13 (木)	(2)ミッション「土おこし」	砂場作り・土のおこし
10/17 (月)		砂場作り・石の色塗り
10/19 (水)	(3)ミッション「土手固め」	砂場作り・土手固め
10/20 (木)		砂場作り・土手固め
10/26 (水)	(4)ミッション「石の装飾」	砂場作り・石の顔描き
11/ 2 (水)		砂場作り・石の色塗り、ニス塗り
11/ 9 (水)		砂場作り・石の顔描き、ニス塗り
11/16 (水)	(5)ミッション「砂場の装飾」	砂場作り・石の飾りつけ
11/18 (水)		砂場であそぼう！

授業内容の一部と児童の様子や変化を、次のとおり紹介する。

I 実践報告

(1) 砂遊び

分教室前のスペースで泥だんご作りを行った。砂を触ることに抵抗感があった児童も活動を通して、少しずつ砂や泥の感触に慣れ、教員と一緒に泥だんごを作ろうとする様子が見られた。また、どうしたら砂が固まるのか、どのようにしたらきれいな泥だんごができるかなど、水や砂の量を調整しながら試行錯誤する様子も見られた。泥だんごづくりを行っていく中で、どんどん遊びが発展していった。池を作ってみたり、池のそばに山を作り池にむかって水が流れるようにしてみたり、児童から多くのアイデアが出て、自分たちで遊びを発展させていく様子が見られた。

(2) ミッション「土おこし」

授業のはじめに、児童に対して土を掘り起こすミッションが伝えられた。砂場を作る予定の場所の土は固く、掘り起こすことに苦労している様子が見られたが、各々が自分なりのやり方で土を掘ることができていた。しかし、自分中心の行動が多く、各々が活動に取り組み、協力して作業を行う様子は見られなかった。

(3) ミッション「土手固め」



授業のはじめに、児童に対してミッションを伝える際は、活動内容を伝えるだけではなく、前回の活動を評価するコメントも合わせて伝えた。活動を行う際は、授業担当者の教員も一緒にミッションに取り組んだ。はじめは、それぞれ離れた場所で、各々が作業を行っていたが、授業担当者の教員が、この授業を行った際に手の怪我をしていて、思うように作業ができなかった。すると、教員を気遣い、教員に対して協力的な行動を取る様子が見られた。手伝ってもらった際には、児童に対して、助けてもらえたことに対する感謝と、その時の教員の気持ちを言語化して伝えるように意識した。

二回目の土手固めの際、前回同様にミッションを伝えてから作業に取り組んだ。すると、児童の中に自分たちに任せてもらえたといった役割意識が芽生え「今日のミッションはなに？」と、ミッションを期待するような発言が見られた。また、少しずつ、協力して作業を行おうとする様子も見られるようになってきた。土を固めていく際、水を汲んでくる児童と土を叩き固めて堀を作る児童に分かれ、教員の促しがなくても、自然に役割を分担し、協力しながらミッションを達成しようとする様子が見られた。

(4) ミッション「石の装飾」

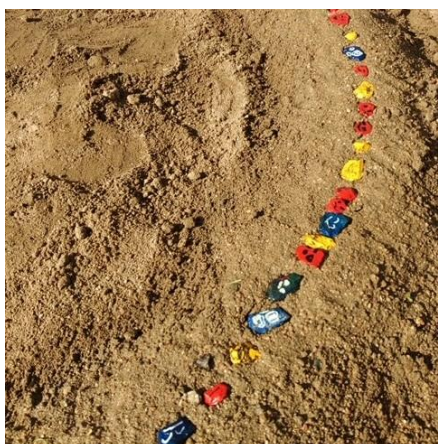
授業の開始前になると、今日のミッションは何なのか、わくわくしている雰囲気が感じられた。装飾をする石は、自立活動わにタイムの時間に全学年の児童で集めた。



装飾をする石の数を均等に分け、作業を開始した。基本的には各自の作業であったが、相手を気遣い協力をする様子が見られた。自分に与えられた石を塗り終わったり、顔を書き終わったりすると、友達のを自ら手伝ってあげたり、装飾のために使用していた絵の具やポスカ、ニスを譲りあって使用する様子が見られた。

I 実践報告

(5) ミッション「砂場の装飾」



装飾をした石を砂場に埋め込み、砂場の装飾を行った。泥だんご作りの経験を活かし、固くなった砂場に石を埋め込んでいく際は、埋め込む前に水を垂らして、砂をやわらかくして埋め込み、埋め込んだ後土を固める際は、違う場所からさらさらとした砂を集めてかけ、これまでの経験や気づきを活かしながら自分たちで作業を進めることができていた。また、石を埋めていく際、好き勝手に埋める様子は見られず、自分たちで色のバランスを相談したり、友達の持っている石や残った石の数を考え、子ども同士で声をかけあったりしながら作業をすすめることができた。

4 さいごに

砂場作りのミッションを行って行く中で、回数を重ねるごとに、次の新たなミッションを楽しみにするような様子が見られた。ミッションを達成していくごとに自信がつき、自分たちだけでは達成できないことであっても、共通の目標を達成するために、お互いに助け合いながら活動ができた。当初、この単元を行う前までは、教員の促しを受けながら友達同士で協力をしたり、譲り合ったりできることを目標としていたが、友達同士で自然にそういった行動ができるようになっていったことは驚きであった。砂場を見渡せる階段の上から完成した砂場を見た際に、とても満足気な表情で「わぁ！これは世界一の砂場や」と二人して言い、他学年の友達に対しても「これ、おれたちが作ったんやで」と誇らしそうな様子で話していたことがとても印象的であった。自分たちに役割を任せてもらえ、それを評価してもらえたことが大きな自信につながったように感じる。自分たちでできたという自信は、生活科の授業だけでなく、他の授業の様々な場面で、今まで自信がもてずできなかったことにも、やってみよう、挑戦してみようといった気持ちをもつことができた。

